

令和7年度 浜松市立中部小学校 学校評価報告書

1 自己評価

自己評価結果、考察及び改善方策
別紙（学校便り）のとおり

2 学校関係者評価

2月10日（火）に開催した学校関係者評価委員会（学校運営協議会）において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

- ① 地域のよさを理解しながらも、地域の行事に参加していない児童生徒が多いことは残念に思う。自治会の行事が減っていることや年配者の集まりはあるが子供会の活動はやりにくいという地域の現状も関係していると思われる。自治会としても参加率が上がるように考えていきたい。学校でも、地域のことを知ったり興味や関心をもったりするような働き掛けをして欲しい。
- ② 夢や希望を持っている子供の割合が増えているのは素晴らしい。6年生のキッズチャレンジビジネスに携わっているが、よい結果を受け、うれしく思う。年齢が上がるにつれて、現実とのギャップに諦めてしまう面があるのも仕方ないが、諦めずに頑張ってもらいたい。

学習面で児童生徒と保護者との評価に差がある要因の一つに、我が子の将来に対する不安があるのではないかと感じる。取り立てて大きな問題がなくても、できているかどうかを問われたら、本当にできていると答えてよいのか躊躇する保護者の心情は理解できる。

- ③ いじめについて、88%の児童生徒が仲間や教員と一緒に解決できていると答えており、一見よい結果とみることができる。しかし、10%以上の子供たちが、未解決である可能性もある。全体から見れば少数ではあるが、今後も、いじめを見逃さない雰囲気をお願いしたい。また、いじめはいけないと理解している子供は多いが、いじめを許さない雰囲気に関する肯定的な意見が低いのは気になる。自分は気を付けているが、実際はいじめがあるということだと思ってしまう。いじめを許さない雰囲気をつくるためにはどのようにすべきか、何をしたらよいのかを考えたい。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

- ① 今後も、生活科や総合的な学習の時間等を活用して、学区の公共施設や商店街などを実際に訪問したり、地域の方と関わったりする機会を大切に、地域のよさや地域とのつながりを生かした学習を大切にする。
- ② 夢や目標を持っている児童生徒の割合が増えたのは、自ら学ぶ力を育てるための「チャレンジ学習」や自ら考えて選択する機会を大切に生徒指導、心の健

康を保つための「ピア・サポート」プログラム等のこれまで本学園で実施した取組の成果であると考えられる。それぞれの取組の意図や意味を全教職員で再確認して、子供たちの主体性を大切にする教育活動を継続する。また、チャレンジカード（初等部）やテストカード（中等部）、三者面談などの情報共有の場をより一層充実させ、家庭と連携して個々の学びを支え、保護者の不安軽減を図る。

- ③ 他者意識が芽生え始めたばかりの、特に初等部児童にとっては、悪意がなくても相手に嫌な気持ちにさせてしまう場面が多々ある。どのようにふるまうべきか、どのように自分の思いを伝えたらよいのかを一緒に考え、互いによりよい関係が築けるように支援し続けることが、いじめの再発防止を目指す上で大切であると考え。引き続き、いじめ見逃しゼロを目標に子供たちの様子を注意深く見守ると共に、子供たちの思いに寄り添った丁寧な指導を目指す。また、道徳や学活等の時間を活用して、いじめはなぜいけないのかを、心情的なアプローチだけではなく法的な根拠やいじめの三要件などと合わせて指導する場を設定し、いじめを許さない学級学校風土づくりを目指す。